

テーマ

幼小中連携教育を地域とともに、そして街づくり～協働～

目標

**人材の発掘と育成、地域と学校園が連携・協働した取組の充実、
小中一貫教育の推進（ハリソンスクールとの交流、全国サミット参加・開催協力）**

今年度の取組紹介

地域のおとなと子どもの交流・協働をテーマとした「夏休み子どもプロジェクト」の取組は三年目を迎えました。今年度は、幼稚園と小中学校それぞれで開催することができ、幼稚園では、園児たちとボランティアさんや保護者も一緒に、トマトの苗植えから収穫したトマトを使ったゼリー作りを行い、美味しくいただきました。トマトが嫌いな子どもも、自分でつくったデザートは美味しいとあって完食。ゼリーが固まるまでの時間は、ボランティアさんと一緒にシャボン玉で遊んだり、絵本の読み聞かせなどを行い、楽しいひとときを過ごしました。小中学校では、放牧しているひつじとふれあうイベントを企画し、牧場の飼育員さんからひつじについてのお話を聞き、羊毛刈り体験をしました。子どもたちはドキドキしながらも飼育員さんに手を添えてもらい上手に毛を刈り上げていました。また、その羊毛を翌日に洗浄する体験もしました。洗浄作業は、思っていた以上に重労働でしたが、だんだんキレイになっていく様子を見て、子どももおとなも満足げな様子でした。作業を終えた全員の感想が、「羊毛を使って何かをつくりたい！」でした。その後、「ひつじプロジェクト」をスタートすることができました。



今年度のまとめ

協議会立ち上げから5年目を終え、教職員との連携も進み、様々な取組を行えるようになってきました。学校園からの支援依頼だけでなく、コーディネーターからの提案も実現し、双方面からの取組を行っています。中でも、小中学校の海外交流校ハリソンスクールへ、地域のおとなと子どもが訪問し、学校だけでなく地域も今まで以上に推進する働きにつなげることができました。これまでの5年間を振り返りまとめ、全国サミットでの「地域からの学校支援」という場で発表し、これからの活動へ向けての共通理解ができました。また、ボランティア登録数は140名を超え、様々な社会経験を持つ地域の方の支援を受けています。しかし、その反面人材の固定化が進んでいることがこれからの課題の一つになっています。

来年度に向けて

支援人材の固定化を防ぐために、募集の方法や支援の仕組みを見直し、「学校支援情報」や「学校支援カレンダー」の活用をさらに広げていきます。また、おとなと子どもが協働できる場を増やし、それぞれが地域の中で役に立っていると思えるような工夫した取組を進めていきたいと考えています。その他、秋には海外交流校ハリソンスクールの生徒の来校が予定されており、ホストファミリーや通訳などの協力依頼を地域全体に呼びかけ、地域と学校が連携・協働した取組を行っていきたくと考えています。

テーマ

地域の教育力を生かした小中一貫教育の推進

目標

今まで地域の協力も得て整えてきた小中一貫教育の基盤をさらに充実させ、地域の方々の協力を得て、小中一貫教育の推進を図る。

今年度の取組紹介

「夏休み子どもプロジェクト」において、学校の北側斜面に放牧している羊の毛刈りと洗浄する体験をおとなと小学生の子どもたちが協力して行ない、この羊毛を使って羊のマスコットをつくることができました。

そこで、県立奈良西養護学校を会場にして行われた、奈良帝塚山地区自治連合会主催の第7回ふれあい文化交流会に地域教育協議会が参加した折り、ポップコーン販売の出店に加えて、この羊毛を使っての羊のマスコットづくりセットの販売を行いました。中学校クラフトデザイン部の生徒がマスコットづくりのインストラクターとして活躍し、お客様に実際にマスコットを作っていただき、たいへん好評でした。中学生とボランティアが協働でき、大変有意義な1日になりました。



今年度のまとめ

地域教育協議会が生まれて5年が過ぎ、地域と小中学校との結びつきも強まってきました。環境整備支援、読書活動推進、学習支援、部活動見守り支援、音楽教育支援、キャリア教育支援事業の他、登下校時の見守り活動にも多くのボランティアが参加してくださっています。子どもたちと地域の方々が出会い、ふれあい、たくさんの経験をすることで、大人も子どももこの地域の中での存在意義を強く意識することができました。また、「めざす子ども像」について学校と地域との話し合いの機会をもち「思い」を共有することができ、小中一貫教育推進の大きな助けとなりました。しかし、ボランティア登録していただいている方は多いのですが、参加していただいている方が減少傾向にあるのが大きな課題です。

来年度に向けて

地域の方々やボランティア、保護者、教員に「学校支援情報」と「ボランティアカレンダー」の配布やホームページによる広報を継続しながら、学校もボランティアもともに「良かった」と思えるような活動になるよう工夫改善を進めていきたいと考えています。

学校と地域が連携をより密にして、子どもとおとなが協力・協働する場を模索し、おとなも子どもも自分たちが地域の中で役に立っているんだと思えるような取組にしていきたいと考えています。

テーマ

地域の教育力を生かした小中一貫教育の推進

目標

今まで地域の協力も得て整えてきた小中一貫教育の基盤をさらに充実させ、地域の方々の協力を得て、小中一貫教育の推進を図る。

今年度の取組紹介

「夏休み子どもプロジェクト」において、学校の北側斜面に放牧している羊とふれあうイベントを企画し、めえめえ牧場の竹内さんに羊についてのお話と羊毛刈りの実演をしていただきました。見学に来ていた子どもたちも羊毛刈りにチャレンジ！少し怖がりながら、ドキドキしながら多くの子どもたちが体験をしました。

シープ工房『るう&くう』の小田さんにご指導いただき、19名の子どもたちが、刈った羊毛を洗浄する体験を行ないました。羊毛についている油とゴミを取る作業を2時間かけて行ないました。なかなか根気のいる作業でしたが、大人よりも子どもたちの方が最後までしっかりとやり遂げてくれました。この羊毛を使って羊のマスコットをつくることができました。



今年度のまとめ

地域教育協議会が生まれて5年が過ぎ、地域と小中学校との結びつきも強まってきました。環境整備支援、読書活動推進、学習支援、音楽教育支援、特色ある教育事業の他、登下校時の見守り活動にも多くのボランティアが参加してくださっています。子どもたちと地域の方々が出会い、ふれあい、たくさんの経験をすることで、大人も子どももこの地域の中での存在意義を強く意識することができました。また、「めざす子ども像」について学校と地域との話し合いの機会をもち「思い」を共有することができ、小中一貫教育推進の大きな助けとなりました。しかし、ボランティア登録していただいている方は多いのですが、参加していただいている方が減少傾向にあるのが大きな課題です。

来年度に向けて

地域の方々やボランティア、保護者、教員に「学校支援情報」と「ボランティアカレンダー」の配布やホームページによる広報を継続しながら、学校もボランティアもともに「良かった」と思えるような活動になるよう工夫改善を進めていきたいと考えています。

学校と地域が連携をより密にして、子どもとおとなが協力・協働する場を模索し、おとなも子どもも自分たちが地域の中で役に立っているんだと思えるような取組にしていきたいと考えています。

テーマ

地域を愛し、地域とともに育つ子ども

目標

**地域の人や様々な人とのかかわりを大切にする。
子どもが喜ぶ魅力のある絵本の部屋作り**

今年度の取組紹介

絵本の部屋整備事業

絵本の部屋は、本棚が少なくロッカーを本棚代わりに使用するなど、子ども達が利用する時、本が取り出しにくかったので、絵本棚の購入をしました。絵本も地域ボランティア保護者との協力で、本を整理分類し、色別のシールを貼ったり、いたんでいる絵本の修理を行ったりしました。絵本も増やし、「本をたいせつにしましょう」「本は同じ色のところに返そうね」などの表示をつけました。「どの本読もうかな」「先生、この本読んでほしいな」と子ども達の利用が増え、来たくなるような魅力ある環境になりました。

**近大生によるふれあいコンサート**

近くにある近畿大学農学部吹奏楽同好会のお兄さんお姉さんたちによるふれあいコンサートでは、子どもたちがよく知っているアニメメドレーや幼稚園の園歌などの演奏を親子で楽しみました。

その後、実際に楽器を鳴らさせてもらったりして楽しいふれあいの時間を過ごしました。また、運動会では入場曲やファンファーレを生演奏してもらい競技が盛り上がりました。



今年度のまとめ

今年度も地域の方々や様々な人たちの教育力を活かしながら、子どもたちは恵まれた環境の中で、お茶会、運動教室（わくわくタイム）、わくわく農園での栽培指導、地域ボランティアによる文楽公演、近大生によるふれあいコンサート等豊かな体験が出来ました。様々な活動でいろいろな人とかかわる中で、自分から挨拶したり、ふれあうぬくもりを感じたり、子ども達にとって楽しみな活動になっています。

また、園内の環境においても、園庭遊具のペンキ塗りや絵本の部屋の環境整備など地域の方や保護者の力を得て事業を進めることができました。

来年度に向けて

地域の教育力を得ながら、継続している事業（お茶会、運動教室わくわくタイム、文楽公演など）を次年度も実施し、様々な体験活動を子どもたちの成長に繋げていきたいと思ひます。

また、来年度は未就園児保育（ミッキーグループ）を充実させ、主体的に遊べる環境の見直しや整備、幼児教育を知っていただく情報発信を引き続きしていきたいと考えています。